

NHK人事は葛西会長の鶴の一声!? 「四季の会」暗躍する?

『選択』2011年3月号は、NHK新会長をめぐる騒動で「四季の会」が暗躍した、と報道しました。「四季の会」とは、安倍晋三氏を支援する組織で、JR東海葛西会長が代表を務めています。葛西代表の鶴の一声でJR東海松本副会長がNHK会長となったというのです。

問題は、民間の一政治的グループが、公共放送の人事に介入しただけではとどまりません。かつて安倍晋三氏はNHK番組への介入で、言論弾圧・封殺の問題となりました。

その番組とは「戦争をどう裁くか(2)問われる戦時性暴力」(2001年1月30日放送)で、安倍晋三幹内閣官房副長官(当時)らが事前に介入し、番組の内容が大きく変更されたと告発されています。『しんぶん赤旗』によると、放送日前日、安倍氏と面会したNHK幹部の指示で、44分ものが43分に、最終的には40分に修正されたというのです。

修正された内容とは、①「女性国際戦犯法廷」が、日本軍による強姦や慰安婦制度が「人道に対する罪」を構成すると認定し、日本国と昭和天皇に責任があるとした部分を全面的にカット。②スタジオの出演者であるカルフォルニア大学の米山リサ準教授の話を数ヶ所でカット。③「女性国際戦犯法廷」に反対の立場をとる日本大学の秦郁彦教授のインタビューを大幅に追加。④中国人被害者の紹介と証言のカット。⑤東チモールの慰安所の紹介と、元慰安婦の証言のカット。⑥自らが体験した慰安所や強姦についての元日本軍兵士の証言のカット、というものです。

大の戦争好き・大の中国嫌いの葛西会長なら、このような番組放映は許されないでしょう。私たちは、NHK松本新会長により、歴史の事実を隠蔽し、反戦・平和運動を弾圧・封殺し、新たなる戦時体制を目論まれていると、危惧せざるを得ません。

都合の悪い報道をさせないことが目的?